

# ベイエリアの先端政策! 「みなとパブパブ」

パブパブ  
 = PPP (Pが4つ)  
 = PPP+プロジェクト  
 => PPPとは? => 「公民連携」  
 = パブリック(公) + プライベート(民) のパートナーシップ(連携)  
 = 行政が民間と力をあわせ、民間のアイデアを活用し、民間が公共性のあるプロジェクトをおこなうこと。

ふしぎな名前の「ミナトパブパブ」とは?



港に光る! 公民連携マーケット  
**港区3エリアで、公民連携マーケット!**  
 港区は令和元年度「産業振興に向けたにぎわい創出事業」として、公民連携で社会実験を兼ねたマーケットを年度内に数回開催します。マーケットの名称は、「ミナトパブパブ」。井田町・御船・大船の3駅周辺エリアが中心会場です。エリアの個性を生かしたマーケットに、ご期待ください。  
 企画・運営 | 一般社団法人港まちづくり協議会大阪  
 (法人の作るページ)

# 港まちづくりタイムズ 第7号

## 特集: 港・大正の地域振興のカギ (大学調査)



発行者: 産官学連携会議「港区CRテーブル(港区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」、「大正区CRテーブル(大正区、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」、  
 発行日: 2020年12月30日 編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪(大阪市港区築港3-7-15 港振興ビル212 06-6572-0017)

### 港区からのまちづくりの挨拶

昨年から続く新型コロナウイルス感染症により、人々の活動は制限され、港区のまちづくりにも大変大きな影響を与えています。大阪市の学生、学生の皆さんは、この逆境に屈することなく、「水辺景観」「商店街」「大阪港」といったテーマについて深く掘り下げた研究に取り組んでいただきました。

港区産官学連携会議も今年度で6年目を迎える。港区のまちづくりを考えるうえでなくてはならないものに定着してきました。これからも港区の未来に向けたまちづくりを一緒に進めていきましょう!

(港区役所総務課  
 にぎわい創出担当課長代理 細江)

### 大正区からのまちづくりの挨拶

フィールドワーク授業に関する意見交換会に参加させていただき、大阪市立大学の学生の方3名からそれぞれの研究についてお話をうかがいました。

「水辺景観」「商店街」「大阪港」と三者三様のテーマを設定されており、学生の皆さんが自分の研究について、自分の言葉で、真摯に丁寧にお話になる姿を拝見し、非常に頼もしく思っていました。

今回お聞きしたお話からは、学生の皆さんがフィールドワークにおいて、実際に大正区、港区に足を運び、「まち」をその肌で感じ、さらに、アカデミックな視点で「まち」を見つめられたことが、強く伝わってまいりました。

これからも学生の皆さんが「リアル」な体験を通して、「まち」を見つめ、そこで感じたことをカタチにされることを期待しております。

(大正区役所政策推進課  
 政策推進グループ係長 前田)

### 両区と大学の産官学連携会議 (CRテーブル)

2020年7月14日15時から、両区の産官学連携会議(CRテーブル)を開催、学生と両区の行政担当者との活発な議論がおこなわれました。



大正区の尻無川の景観、ものづくり、産業遺産、中山製鋼のまち景観、タグボート大正、渡船、川の荷揚げから、現状も生きているクレーン、橋のまち、なみはや大橋、シェアサイクル、サイクリングなど、いろいろなアイデアが出され、熱心に検討されました。



### ① 八幡屋グランピックvol.1

2019年10月14日(月・祝) 11:00~15:00 開催場所 八幡屋公園 まちの真ん中で自由に楽しむ、都市のアウトドア「港区のセントラルパーク」的な存在である八幡屋公園をメイン会場に、地域住民やレジャー・イベント 客が木や花、星や空などの自然に親しめるマーケットを開催。スポーツ、グランピングやアウトドア、DIYなど、体を使って楽しめる内容を盛り込み、本格的なスポーツ施設を備えた都市型公園の魅力をアピール。区民まつりや、体育館・プールでイベントが行われる日に合わせて開催することで、人・時間・空間を活用。より多種多様な人の参加を促すことが可能になる。




八幡屋グランピック  
 2019年10月14日 11:00-15:00  
 八幡屋公園  
 Green Market  
 シェアサイクル

★「バーベキュー企画」八幡屋公園利用の可能性を探る社会実験として、今回は特別に園内にてバーベキューを行った。

### ② ベイクルマルシェ

2019年11月10日(日) 10:30~16:30 開催場所 天保山公園および客船ターミナル前タクシーロータリー広場 MINATO 天保山まつり 2019 と同日開催した。観光地としての顔だけでなく、歴史ある港町としての顔を知ってもらうため、「まち歩き」ならぬ「まちサイクリング」でエリアを散策。大阪臨海線や天保山遊園など、150年以上の歴史を誇る港町を巡る。ゴール地点となる会場にはマルシェを開き、サイクリング参加者以外も楽しめる仕掛けにした。観光客には新たな魅力を発信でき、地域住民にはまちへの理解や愛着を深めることにつながった。サイクリングには3月より実証実験がスタートした「Bayside Cycle (ベイクル)」を活用することで、回遊性向上、認知度アップ、利用促進を目指した。




ツールド・ベイエリア 大阪港・天保山  
 2019年11月10日 10:30-16:30  
 Bay Side Market

★サイクリング企画「ツールド・ベイエリア大阪港・天保山(社会実験)」

10:00~18:00 地域間交流をシェアサイクルイベントで実施し、公民連携および産官学イベントを開催することで、みなとオアシスのある港町の景観を多くの人に知ってもらうことを目的として実施。当日は快晴で、サイクリング日和であった。開催場所 Bay Side Market (タクシーロータリー広場) 昨年より、タクシーロータリー広場にてキッチンカーを中心としたBay side Market を開催。DJブースや音楽を流し、おしゃれなワークショップなど数多くの出店者が集まった。幅広い客層でエリアは大賑わいであった。



### ③ 八幡屋グランピックvol.2

2019年11月16日(土) 11:00~15:00 開催場所 八幡屋公園 同日開催で、八幡屋ナイトマーケットも開催。夏と秋に1回ずつ計2回の開催を予定。八幡屋では、夏はキャンプシーズン、秋は10月の港区民まつりの日に合わせて自然を体感できる企画。今後は、体育館でのスポーツイベントに合わせて開催予定。9月台風シーズンを避けるが雨天の場合は順延。八幡屋商店街や、大阪プール、大阪市中央体育館との連携で回遊性を高める。



八幡屋グランピック2  
 2019年11月16日 11:00-15:00  
 八幡屋公園

★「バーベキュー企画」および「八幡屋商店街ナイトマーケット」

17:00~21:00 公園内でバーベキューする際の食材は、八幡屋商店街の各店舗にて購入し、バーベキューに参加する。当日協力店舗 若竹精肉店(精肉)、筑瀬商店(八百屋)。また、同日夕方より八幡屋公園内にてナイトマーケットを実施した。

### ④ ミナト de ナイトクリスマス

2019年12月22日(日) 16:00~20:00 開催場所 中央突堤 第2上屋倉庫内 大阪市内でも有数の観光スポットである天保山・築港エリアを中心に、ナイトカルチャーを創出するイベントを開催。海や港など港区ならではの資源を生かしながら、夜に楽しめるコンテンツを盛り込む。「上質な大人のナイトカルチャー」をコンセプトに、まち中の飲食店で音楽が楽しめる「ジャズバル」や船上ライブ、光の饗宴とのコラボなど、音と光の演出で天保山・築港エリアの夜を盛り上げる。今回は中央突堤2号上屋(倉庫内)でクリスマスイベントを実施した。




ミナト de ナイトクリスマス  
 2019年12月22日 16:00-20:00  
 中央突堤 第2上屋倉庫内

編集後記: 港まちづくりタイムズ第7号は、港区・大正区の地域活性化とまちづくりについて市大生による、感染症時代のオープンエアの集客、ニッチな拠点の再生などについてご報告しました。  
 ★本タイムズのバックナンバーは(一社)ホームページ <http://minatomachi-o.jp/> をご覧ください。  
 港まちづくりタイムズ第7号 発行者: 産官学連携会議「港区CRテーブル(港区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学都市経営研究科小長谷研究室)」、「大正区CRテーブル(大正区役所、(一社)港まちづくり協議会大阪、大阪市立大学大学院都市経営研究科小長谷研究室)」、発行日: 2020年12月30日、編集事務局: (一社)港まちづくり協議会大阪



# afterコロナの健康まちづくり 有カスポットはオープンエアの水辺景観!

(松井歩美) 01

そもそも景観とは？ 海や川などの自然、橋や公園などの建築、暮らしや経済活動などの人のいとなみといった、地域を構成する特徴的な要素(=シンボル)によって成り立っています。最近工場跡などといわれるように、ベイエリア・工業地域の景観、クリエイティブな景観に関する研究はありますが、ここでは視点論から、これまでにない魅力的なスポットを抽出することにします。地域資源は水辺、港、個性あふれる橋、水門、舟、水辺の工場があります。

**\*新しい観光景観の創出1—シンボルをどこからみるか？**  
視点が変われば魅力も変わるので、対象と視点の関係に着目します。

**1) まち全体を見渡す** 写真03の安治川突堤や、写真06の八幡屋公園のようにまち全体を見渡すスポットが大切です。

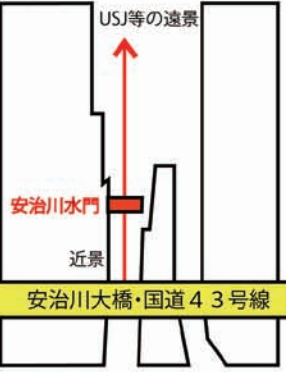
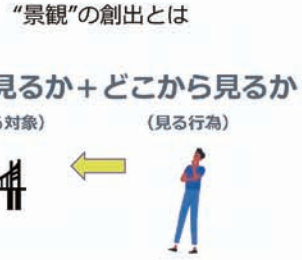


**\*新しい観光景観の創出2—まちに入って見る視覚的魅力**

**1) まちなかアートを探す** 写真02の加藤汽船ビル(タイトル右写真、アート系店舗)、写真04住友大阪セメント。辰巳ビル前(パイプの美)、写真05・写真07阪神高速高架の芸術美。



**2) まちの歴史と不思議** 写真09京セラドーム前瓦屋通り、写真10タグボート大正(公共空間の水面上を使っている)、写真12(水辺の工場景観=公共空間の道路上を使っている)。



**06 2) 橋の上から見る**  
水上は橋以外に大きな建物がなく、対象を遮ることなく見れます。写真01安治川大橋(舟・水門を正面から眺める)、写真08水道橋(水辺景観を静かに楽しむ)写真13千歳大橋(橋の構造が面白い)、写真14なみはや大橋(高所からの道路と水辺の風景)。

# アフター/ウィズコロナ時代 商業・観光・集客産業のカギは 屋外、公園、キッチンカー! オープンカフェ/バル、デリバリー、屋台等

(田中真帆)

世界中で感染が拡大している新型コロナウイルス。日本でも外出自粛に始まり、マスクの着用、在宅勤務、観光地の封鎖など日常生活がガラリと変わってしまった。しかし経済活動も両立させていかなければならない。コロナ対策として3密を避けることで感染リスクを下げる事ができるとされ換気の重要性が取り上げられている。これからコロナと付き合っていくにあたって常に換気ができる屋外でのOPENカフェやレストランが注目されている。港区の中心にあり、大きなドームの野外空間をもった八幡屋商店街を研究した。

**(1) オープンカフェ/バル** 八幡屋商店街はコロナが流行する以前から屋外イベントを行っている。商店街内にある散髪屋Bar Berがイベントとして"Bar Ber Bar"を開催している。ここでは極寒バルという冬の寒い中お店の窓やドアを全開にしてお酒を飲み楽しむといったユニークなイベントが開催されていた。

**(2) 商店街とセットの公開イベント** 商店街ヨコには年間沢山の人が訪れる八幡屋公園がある。2019年の10月に開催された八幡屋グランピックのイベントも外で開催されているため常にOPENな状態で開催されていた。出店していたお店も自然にも体にも優しい自然派のお店が並ぶグリーンマーケットや、ジャズ、パフォーマンスなどを開催。イベントが終わりに近づくとつれ公園内の芝生の上で家族とのんびり過ごしながら楽しんでる家族がたくさんいた。この取り組みの続きとして八幡屋グランピックバージョン2が1か月後の11月に開かれた。第2弾も第1弾に続いて社会実験として特別にバーベキューを開催した。公園をでたところでもフリーマーケットが開催された。また、今回は地域との連携を深めるためにその日の夜に八幡屋商店街内で開催されるナイトマーケットの指定された店舗で使えるクーポンも配布し10人に1人がそれぞれで商店街で買い物をした。八幡屋グランピックは自然に囲まれた公園でのイベントのため屋根もなく常に換気されている状態でアフターコロナのイベントとしてはうってつけではないだろうか。

**(3) キッチンカー/屋台** また、コロナの影響で飲食店が営業して自粛している中「3密」を避けながら温かいプロの料理が食べられるとあって、キッチンカーが注目されている。デリバリー業態は規制の範囲外でキッチンカーも規制の範囲外とされています。また企業の在宅勤務や臨時休校で子供がいる家庭では主婦から「毎日3食作らないといけない負担が減る」「ちょっとした気分転換にもなる」といった声も挙げられている。他にも複数のキッチンカーが市内各地を巡回し屋外かつテイクアウトという販売形式で、密閉・密集・密接の「3密」を避けたキッチンカー市場を作る取り組みをしている地域もある。



# 地域の隠れスポット! 魅力開発

**(1) なぜ地域のかくされたスポットに注目するのか?**  
「顧客行動の変化」オールドツーリズム(名所・団体観光から、ニューツーリズムへの移行(『港まちづくりタイムズ5』))という大きな流れ 1) 定型の名所から個人の自由な趣味に! 2) 団体から小グループに! 3) 今後のコロナ禍で野外のそぞろ歩き観光が重要に=>隠れたスポットの開発で、地域が活性化する可能性=>大阪港(発祥の築港地区)で、2つのスポットに注目する。

**(2) 隠れたスポット① 中央突堤**  
1) 中央突堤とは? 大阪港駅からコスモスクエア駅にかけて地下を走る大阪メトロ中央線の真上にある波止場。ダイヤモンドポイントという名称の大阪市で最もきれいな夕日が見える知る人ぞ知る隠れたデートスポットでもある。  
2) かつては大きな棧橋だった。築港大棧橋として明治36年(1903年)に完成。全長455m、幅員27mの巨大鉄橋。大阪港を近代的な港にすることを目標に予算的にも技術的にも厳しい中、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケと元大阪府知事の西村捨三が先導し、地域住民の協力を得ながら完成。釣り人もたくさん訪れるようになり「東洋一の釣魚台」とまで報道されることも。  
3) 第一次世界大戦などを経て景気の波に乗り、さらに港を拡大する工事(第二次修築工事)にとりかかる。1934年室戸台風襲来により壊滅的な被害に。市民の力を借りて復興を果たし1937年には貨物取扱量が日本一に。しかし南港エリアの完成にともない、港湾としての役目を終える。  
4) 【これから】敷地はダイヤモンドポイントとして整備されている中、時代に取り残された倉庫を新たに整備することで、ショールームや、カフェ、レストランなどを整備し、市民の憩いの場として生まれ変わる。

**(3) 隠れたスポット② (旧) 客船ターミナル**  
1) 天保山ターミナルとは? 天保山マーケットプレイス、観覧車の裏側の岸壁。桜島と築港を結ぶ渡し船の船着き場もあり、サンタマリア号をはじめとして大小様々な船が就航する。  
2) 物ではなく人が集まる港。天保山橋として大正、市民の協力を得ながら完成。開業当時から大きなクルーズ船が就航し、四国や九州をはじめとして各方面の客船で賑わった。  
3) 大きな母港に。老朽化が進んで上、バリアフリー非対応。2021年度より建て替え工事開始。より巨大な客船を迎え入れる大きな「母港」に。  
4) 【これから】EXPO2025へ向け「みなとオアシス」へ! 地域住民の交流や観光の振興を通じた「みなと」を中心とした地域の活性化を促進するため国土交通省より定められた地域。大阪万博夢洲本会場へのフェリー発着点となる。多くの人を訪れること間違いなし。

